



2019 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第3戦・4戦

開催場所 本庄サーキット(埼玉県)
開催日 6月1日・2日
参加台数 OK クラス 29 台
天候 晴れ
路面状況 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督:佐藤奨二

ドライバー:水野皓稀 / 佐藤凌音

メカニック:伊藤進/橋本剛基

エンジン担当:K SPEED WIN

アドバイザー:井上寛之



2019 全日本カート選手権 第3&4戦 (本庄サーキット)

2019 オートバックス全日本カート選手権は前回の鈴鹿大会から約1カ月のインターバルをおき第3&4戦となる本庄サーキット。ここ本庄は通常4輪用のサーキットとあってサーキットのレイアウトも道幅も大幅に通常のカートコースより広がっており、当然ハイスピードコースとなっている。スリップストリームが良く効き、例年ファイナルラップまで何が起こるか分からない激しいバトルが展開されるコースとなっている。チームは今大会から約1カ月前に行われたタイヤテストで非常に好調。特に水野は昨年トップ争いに絡むバトルを見せたコースで、昨年表彰台にあと一步に迫りながら登壇する事が出来なかった悔しさを本大会にぶつける。またルーキーの佐藤は前回大会鈴鹿で予選トップを終盤まで走る速さを見せつけたが、今大会からは本人にとっては未知の東地域コースとあってスピードはあってもうまくレースコントロールとバトルができるかが課題だ。チームは木曜日より走行を開始、両選手ともエンジンの慣らしが終われば十分なスピードで周回。特に水野のスピードは木曜日走行を行ったドライバーの中でも群を抜き、チームもさらにタイムアップできるセッティングを発見。木曜日の段階で、今大会の優勝候補筆頭に数えられた。佐藤もスピードとタイムは出るものの、水野に比べるとラップタイムの安定性には欠ける状態。鈴鹿とはまた違うタイプのハイスピードコースに、ハイスピードで乗り上げる縁石。また例えコンマ2～3秒タイムが違えど、スリップについてこられるコースの特徴にうまく合わせることができるのかが、タイム以外に選手に与えられる課題だ。



水野 皓稀 選手



佐藤 凌音 選手

【タイムトライアル】 水野 A 組 1 位(全体 1 位) / 佐藤 A 組 6 位(全体 14 位)



木曜日からの走行はドライビングもセッティングデータ収集も、もちろんタイムも非常に調子が良く、順調に土曜日の午後のタイムトライアルを迎えた。両選手はともにタイムトライアル A 組に振り分けられた。ここしばらくタイムトライアルでは A 組の選手の方がサーキットにもよるがコンマ 1~3 秒速いのがセオリーとなっており、この A 組はアドバンテージになりそうだ。(一斉にスペシャルタイヤの新品が走行を始める OK クラスのタイムトライアルでは B 組ではすでに路面にラバーがのりすぎており、傾向として A 組の後に行われる B 組のタイムトライアルの方がグリップが高すぎる、いわゆる「くわれる」現象が起こっていると

思われる。)また、ここ本庄サーキットでは前述の通りスリップストリームが良く効くコース。どの選手の背後につくのかも選手の腕の一つだ。土曜日午後 15:10 にいよいよ OK クラスのタイムトライアルが A 組よりスタート。スタートから約 1 分ほどで A 組の各選手が一斉にスタート。タイヤを傷めないように慎重に熱入れをしながらポジション取りを行っている。タイヤも温まりはじめ水野は順調にタイムアップ、アタック終盤ではスリップストリームも若干使用でき、36,066 秒をマーク。35 秒台に入れることはできなかったが、堂々 A 組の 1 位を獲得。また佐藤もコンマ 2 秒落ちの 6 位を獲得した。A 組のあと始まった B 組は、予想よりもスムーズにタイムを出すものの A 組のタイムには及ばず水野は AB 組を合わせた全体でも 1 位を獲得。A 組のアドバンテージはあったものの、そうそうたる選手を抑え自身初のタイムトライアル 1 位を獲得した。また A 組 6 位の佐藤には厳しい結果に・・・トップからコンマ 2 秒の間に次々と B 組選手が入り込み 14 位に。最高峰カテゴリーではやはりコンマ 1 秒が命取り、ルーキー佐藤にとっては洗礼となる本庄サーキットでの東地域コースデビューとなった。

【第 3 戦 予選】 水野 3 位 / 佐藤 23 位(リタイヤ)

土曜日午後 16:20 より第 3 戦の予選が開始。この日はかなりの日差しで、夕方とはいえ気温も路面温度もそこそこ高い。他のサーキットに比べるとタイヤに優しいコースではあるものの、もちろん予選ではタイヤもいたわりつつ順位を保つ、もしくは上げることが肝心。水野は自身初めての全日本最高峰カテゴリーでのポールスタート。ここ本庄サーキットにはスタートの「コリドー」の設定がなく、道幅も広いためたとえポールでも隙あらば順位を落としてしまう。スタートは 1 周のディレイの後スタート。1 コーナー立ち上がり、まずは水野が順調にスタートを決める、しかし早くもバックストレートエンドの 3 コーナーではインを突かれてしまう。予選ではタイヤをいたわりながら走る選手が多いのかと予想したが、初動の



の良い選手とリスクテイクしながら順位を上げる若手選手がトップに襲い掛かる展開に。逆にベテラン勢はやはり頭をつかい順位をキープしつつ、タイヤを労わっている様にみえる。水野は 2 周目に 3 位にまで順位を落とすが、ペースはほぼ互角。しかも TOP2 の選手に比べると挙動は安定し丁寧に運転しながらのこのタイム差。しかし、タイヤメーカーもバラバラ、シャーシメーカーもそれぞれ違う選手のラインやブレーキ、アクセルワークは大きく違い、TOP4 の選手で抜きつ抜かれつのバトルをしながら周回をしている。さすがに最高峰クラスの上位選手は、抜いた時も抜かれた時もタイムの落ちが少ない。レース中盤 水野は 6 番

手にまで下がるが、ここに来て初動のよかった選手は徐々に遅れをとり始め、水野をはじめブリヂストン勢が良いペースを保ち始める。水野も徐々に順位を回復し最後は3位でのゴールとなった。またリスクの高い中団の14位からスタートした佐藤はスタートで順位を落としたが、TOPグループと変わらぬタイムで順調に順位を上げる。しかし、アクセルワイヤー系統に不具合が出るという不運なアクシデントでピットイン。ゴールまであと2周というところで無念のリタイヤとなった。

【第3戦 決勝】 水野 6 位 / 佐藤 15 位

日は変わって日曜日、この日は前日と違い日差しが弱く気温もそう高くない。路面温度も昨日より低いようだ。午前9時40分に早くも全日本OKクラス第3戦の決勝がスタート。水野はスタートやや出遅れ、5位ほどで1コーナーへ・・・すると水野のアウト側の選手がイン側の水野へ寄りすぎて接触、接触しスピードダウンした水野に後続の選手も接触し、水野のエンジンが完全に失速。エンジンは止まらなかったがなんと完全に最下位になってしまう。この決勝のスタート、やはり昨日の予選で非常におとなしかったベテラン勢が上手いスタートを決めてきた。TOP2はフレッシュな若手だが、それ以降はベテランが静かに続く、そして最下位にまで沈んだ水野は2周目にはオーバーテイクをはじめ、明らかに各車より速いタイムで時には1周に2台のペースでオーバーテイク。このペースでオーバーテイクしながらTOPグループに激しいバトルがあると確実に残り数周を残しTOPグループに追いつく。一方の佐藤は昨日はTOP陣と変わらぬタイムで走行したが、この決勝はペースが上がらない・・・とは言え後方より2周に1台ほどのペースでオーバーテイクしながら走行。苦しい展開だ。その佐藤をチームメイトの水野がオーバーテイクし更にTOPグループを目指して猛追。レース中盤まで激しくもタイムが落ちにくいバトルをしていたように思えるTOPグループはレースの折り返しから更にバトルが激化。8位にまで順位を上げていた水野が残り周回数7周で順位を7位に上げた瞬間、前方約10メートル強 離れていた1～6位までのトップグループに大きなバトルが発生、しかもレースも後半とあってラップタイムも格段と落ちるバトル。なんとこのバトルで水野が一気にトップグループに復帰、残り6周でトップグループが8台に膨れ上がり最後のバトルへ。水野はこのトップグループでも更に順位を上げる。残り5週の段階でもかなりタイヤが残っているようで、1コーナーと6コーナーのそれぞれで1周2台をオーバーテイク。しかし、これ以降は抜きつ抜かれつのバトルになり最後は6位でゴール。エンジンのリード弁がレース後半破損しペースダウンにつながったようだ。しかし一時は最下位から優勝も感じさせた水野の圧巻のパフォーマンスだった。佐藤も苦しみはしたが15位でゴール。ルーキー佐藤にとっては経験の少ない東地域でのレース。苦しみながらもOKクラスの難しさや先輩ドライバーの技量の高さを肌で感じながら経験を獲得している。



【第4戦 予選】水野 6 位 / 佐藤 16 位



第3戦の決勝から約2時間のインターバルにおいて、OK クラスは再び新品タイヤに履きなおし、タイムトライアルの結果順にて再びスタート、今度は第3戦の反省点もあるのか各車はタイヤを労わるかのようなスタート、水野も今度は綺麗にスタート。さらに後続に若干の-marginを作るが、やはりここはスリップの良くきく本庄サーキット。また初動の良いマシンは2周目からは一気にペースを上げてくる。そしてこの第4戦の予選でもベテラン勢は不気味に静かにタイヤを労わるドライブをしている。佐藤はタイヤを労わるよりポジションアップを必要とする順位だが、昨日の予選とはうって変わりここでも少し苦戦中。水野は

大人し目の予選で6位、佐藤は強烈なバトルをしたが16位、水野には十分なタイヤ残量が、そして佐藤にも思ったより残量がありシャシーポテンシャルは良いようだ。

【第4戦 決勝】水野 2 位 / 佐藤 22 位(フロントスポイラー脱落ペナルティ)

決勝は日曜日の午後15:50スタート。25周にて行われる。若干肌寒くなってきており、昨日のほぼ同時刻に行われた予選ヒートよりも明らかに気温は低い。スタートのためのローリングが始まるが、ここで佐藤のエンジンがかからない。何度も押し掛けを繰り返すが、やはりエンジンに火が入らない。直前のエンジン暖気では快調に起動したのだが…。何度か押し掛けを繰り返した佐藤は再びピットへ、レースはスタートが切られるか…と思いきやディレイ。そして翌周もディレイ。この2回のスタートやり直しで救われたのは佐藤凌音。エンジンが



何とかかかり最後尾スタートにはなるが、ピットアウトし懸命にローリングの最後尾を目指す。隊列は2週のディレイの後スタート。しかしこの2周の間にエンジンに不調をきたすマシンが多く、スタートでもアウト側隊列がやや「かぶり」気味…そのあおりを受けて水野はまたしてもスタート直後の1コーナーで順位を大きく下げてしまう。また OK クラスのスタート直後は特にタイヤメーカーやシャシーメーカーの特徴が良く出てしまう。初動の良いマシンがレース序盤にグッと前に出る現象は、ここ本庄サーキットのように道幅が広いサーキットではなおさらだ。スタートでこそ順位を落とした水野は2周目からは前の選手をオーバーテイク開始。レース開始5周目には順位をだいぶ挽回した。マシンの挙動もトップグループ内では一番落ち着いておりレース後半にまでタイヤは残りそう。ここからしばらくは抜きつ抜かれつを繰り返し14周目には5位へ浮上、前方の4位はブリヂストン最上位の佐々木。その前方には初動が良く逃げていたダンロップ、ヨコハマタイヤを使用するマシンが、徐々にタイムを落とし始めている。水野の後方は若干離れ始めている。レースは16週目、前方の佐々木が前のマシンをパッシング。そして水野もそれに続きポジションアップ、そしてその次週の1コーナーではつ



いに強豪佐々木をパスし 3 位浮上！その後もペースは佐々木よりありそうで、前方の三村を追う。しかし三村も流石のドライビングで3周にわたり2位を死守。しかし残り22周目の1コーナーでついに水野がパス！2位に浮上した。残り3周で前の1位の選手とはコンマ1,5秒差、距離にして約10メートル強……。しかしペースは水野が圧倒的に速い。グングン追いつく水野だったがここでゴール。残り2周でもあれば……。というところだった。またエンジンがかからず、最後尾スタート佐藤は予選でのタイヤの使い方も響いたか、終始タイムが上がらないなかそれでも13位でゴールしかし、佐藤のフロントスポイラーは脱落しており残念ながら5秒ペナルティ、順位は22位となった。



#33 ドライバー 水野皓稀 コメント



今回の本庄大会では木曜日から調子が良く
その流れをタイトラでも生かすことができポールを
取ることができました。レースでは
スタートで全て損をされていて非常にもったいない
レースをしてしまいました。次の茂原では
スタートを改善して優勝できるよう頑張ります。

#44 ドライバー 佐藤凌音 コメント



今回の本庄大会では、レースの展開が悪く、
レース内容で多くの反省が残るレースでした。
この反省を次の茂原大会までに改善し、
少しでも上位進出できるように頑張りますので、
次戦も応援よろしくお願い致します。

